

米、シリア攻撃

民間人巻き込む恐れ

中東情勢さらに混乱

米軍がシリアのアサド政権の関連施設に巡航ミサイルを発射した。シリアでは化学兵器を使用したとみられる空爆で反体制派支配地域の住民が多数死傷。トランプ米大統領がアサド政権を非難するなかでの軍事攻撃だった。国際情勢への悪影響や、民間人が被害を受けることへの懸念が広がっている。【杉本修作、金秀蓮、阿部亮介】

中東情勢に詳しい山内昌之・明治大特任教授は「シリア北部イドリブ県で化学兵器が使用された空爆への報復だろう。化学兵器使用を『レッドライン（越えてはならない一線）』と表現したが軍事介入はしなかったオバマ政権とは違う。そう国際的に意思を示したかっただろう。さらに、米中首脳会談が開かれ

を方針転換させた。オバマ政権はアサド政権に対して攻撃したことはなかった。アサド政権にとって誤算だったのではないか。中東情勢はさらに混乱するだろう」と分析する。シリア難民らの医療支援などを行っているNPO法人「日本イラク医療支援ネットワーク」（東京）の佐藤真

紀事務局長は「アサド政権か、反体制派のどちらが化学兵器を使用したのかはまだはっきりしていない」と強調。「ミサイル攻撃によって化学兵器がなくなるわけではない、民間人が巻き込まれる可能性もある。本当にアサド政権が化学兵器を使ったというのなら、化学兵器禁止条約の枠組みに沿って制裁を科すべきだ」と話した。現地の医療体制を支援している国際医療団体「国境なき医師団」の日本事務局によると、シリア国内で活動している日本人はいないが、周辺国では物資輸送や医療的なアドバイスなどの支援を行っている。広報担当者は「情報を知ったばかりなので、活動に影響があるかはまだ分からない」と話している。2014年末にシリアでクルド部隊と過激派組織「イスラム国」（IS）の戦闘を取材したアジアプレス所属のフリージャーナリスト、坂本卓さん(50)は「現地のクルド部隊の情報によると、トランプ政権になってから、米軍のシリアへの軍事的関与の度合いが変わっている。攻撃の意図は分からないが、化学兵器を誰が使ったかの何らかの確認があったのだろうか」と推測した。